

幡中だより

あやめ

～since 1999～

第312号

令和7年6月10日

瀬戸市立幡山中学校



今日は、どのお天気マークにしようかな？

瀬戸市立幡山中学校長 梶田 明敬

正門の弁天池沿いには、本校の校花ともいえるあやめが、今年も青々と育ち、美しく凛とした紫色の花を咲かせてくれました。この時期になると、真っ青な空と汗ばむ陽気が、初夏の訪れを感じさせてくれます。昼休みの運動場では、大縄跳びの練習に励む学級や、体育祭の出場種目の練習に取り組む選手たちでにぎわい、ここ数年恒例の風物詩となってきました。

先日、その運動場を眺めていると、二人三脚の練習をしていた生徒から「早く走れるアドバイスはありますか？」と声をかけられました。突然のことだったのでうまくアドバイスはできませんでした。しかしその後、うまくいったのでしょうか、笑顔で「ありがとうございました」と言って、楽しそうに二人三脚で走り去っていきました。わずかな時間でしたが、子どもたちが気軽に声をかけてくれ、ふれあいができたことに心が温まりました。

こうした何気ない日常のひとつコマがある一方で、子どもたちはいつも笑顔で元気いっぱいというわけではありません。思春期真っただ中の彼らには、友だちとの関係、勉強のプレッシャー、部活動の悩み、家庭でのことなど、さまざまな葛藤があります。その苦しみを誰かに言葉で伝えることができれば、心の整理がつき、次の一步に進むこともできるでしょう。しかし、誰にも言えず、一人で悩みを抱え込んでしまう子どもも少なくありません。

そうした子どもたちの“心の声”を受け取る手助けとなるのが、毎朝タブレットに入力している「心の天気」です。「心の天気」とは、登校後の自分の気持ちを「晴れ」「くもり」「雨」「雷」の中から選んで入力し、必要があればメッセージも添えることができるアプリです。学級担任だけでなく、その他の教職員も確認することができるため、言葉にすることが苦手だったり、ためらいを感じたりしている子どもたちの気持ちにも気づきやすくなる、有効なツールとなっています。

現在、子どもたちは一人一台のタブレット（コンピュータ）を持っています。これは文部科学省が進める、学びを豊かにするための施策の一つです。このタブレットを活用して開発されたのが「心の天気」アプリであり、先日、このアプリを開発した大学教授の記事を読む機会がありました。

そこには、

「言葉にならない気持ちを吐き出すことができる小さな避難場所になる。」

と書かれていました。これは、私自身がこれまで気づかなかった視点でした。

「心の天気」は、単に子どもたちの心の内を把握し、教職員とのコミュニケーションを円滑にしたり、SOSを早期にキャッチしたりするためのツールだけではなく、それ自体が、子どもたちにとっての“心の避難所”のような存在になっているのです。ぐっと我慢していたことや、理由も分からず苦しんでいた気持ちを、「心の天気」によって吐き出すことで、少しでも気持ちが軽くなり、安心して学校生活を送ることができる。そのような大切な役割を担っているのだと感じました。

今朝も教室では、子どもたちがタブレットを開いて、お天気マークを選んでいきます。

「今日は、どのお天気マークにしようかな？」



登校したら、今すぐ“タップ”!

学校公開日

5月17日(土) 8:45~11:20

1・2・3限 授業参観

幡山中学校の教育活動を広く知っていただく機会として、保護者・地域の方を対象に学校公開を行いました。当日は多くの方に足を運んでいただき、ありがとうございました。11月にも同様の公開日を予定しています。よろしくお願いいたします。



中間テスト・学習コンクール

5月12日(月)~13日(火)

今学期最初の定期テストを行いました。1年生は13日に「学習コンクール」として、2・3年生は2日間(12日~13日)にわけて「中間テスト」として実施しました。1年生にとっては、初めての定期テストでしたが、それぞれ学習を計画的に進め、納得の結果を受け取った生徒も多かったようです。



体育祭

5月29日(木) 午前

スローガン:「常笑~咲き誇れ笑顔のつぼみ~」

1学期最大の生徒会行事である「体育祭」が行われました。前日までの暑さが和らぐ曇天での開催でしたが、各種目で熱戦が繰り広げられました。当日は多くの保護者や地域の方々にも来場いただき、活気あふれる生徒の様子をご覧いただくことができました。行事を通じて培った団結力を、今後の学校生活で生かしてほしいと思います。

